

③交通信号機のコントロール

交通状況に応じて、青・黄・赤の信号表示時間を自動的にコントロールします。

交通信号機



信号機の歴史

- **世界初の灯火式信号機(1868年)**
道路交通を整備するための最初の灯火式信号機は、英国のロンドンに設置されました。この装置は、青色、赤色の2色灯器で、光源としてはガスを使用していました。
- **世界初の電気式信号機(1918年)**
電気を使用した最初の信号機は、米国のニューヨーク市5番街に設置されました。この装置は、青、黄、赤の3色灯器で灯器の意味は黄色が「進め」、赤が「止まれ」、青が「右左折可」であったようです。
- **日本初の信号機(1930年)**
我が国最初の電気を使用した信号機は、東京の日比谷交差点に設置されました。この装置は、米国より輸入されたもので、青、黄、赤の3色灯器で、現在と少し異なるのは、青及び赤の後に黄色を同時に点灯していました。
- **福岡県初の信号機(1934年)**
福岡県で最初の信号機は、福岡市中央区天神の天神交差点に設置されました。
- **LED(発光ダイオード)灯器の導入**
1998年(平成10年)に福岡市博多区東公園の県庁北口に県下初のLED灯器を設置しました。
 - LED灯器は寿命が長く電球式の灯器に比べ約10倍長持ちします。
 - 県内の約9,500交差点(全信号機の約92%)にLED灯器が導入されています。(平成29年度末)

※ 福岡県内の信号機は平成29年度末で、約10,300基となっています。